



～交通局の経営状況～



経営戦略の進捗状況

交通局では、今後も市民の皆様からの信頼と期待に応え、人と環境にやさしい市営バスを維持・発展できるよう、平成28年度から10年間の計画である『伊丹市交通事業経営戦略』に取り組んでいます。この経営戦略は投資・財政計画と行動計画（アクションプラン）によって構成されており、平成29年度の結果と取組状況をホームページで公表しています。

1. 収益的収支 (単位:千円)

区分		年度	29年度		増減額
			計 画	決 算	
経常収支	経常収益	営 業 収 益	2,090,093	2,069,255	△20,838
	営業外収益	営 業 外 収 益	286,858	230,703	△56,155
		収 入 計	2,376,951	2,299,958	△76,993
	経常費用	営 業 費 用	2,291,858	2,278,110	△13,748
	営業外費用	営 業 外 費 用	6,634	282	△6,352
		支 出 計	2,298,492	2,278,392	△20,100
	特 別 損 失		2,640	3,674	1,034
単 年 度 純 利 益		75,819	17,892	△57,927	
累 積 欠 損 金		△440,112	△408,810	31,302	
年 度 末 資 金 過 不 足 額 ※		914,574	898,067	△16,507	

※年度末資金過不足額＝流動資産－（流動負債－翌年度償還予定企業債元金）

2. 資本的収支 (単位:千円)

区分		年度	29年度		増減額
			計 画	決 算	
資本的収入			106,500	98,751	△7,749
資本的支出			208,231	197,539	△10,692
収支不足額			△101,731	△98,788	2,943
補てん財源	消費税資本的収支調整		10,564	7,873	△2,691
	損益勘定留保資金		91,167	90,915	△252

詳しくはホームページをご覧ください。

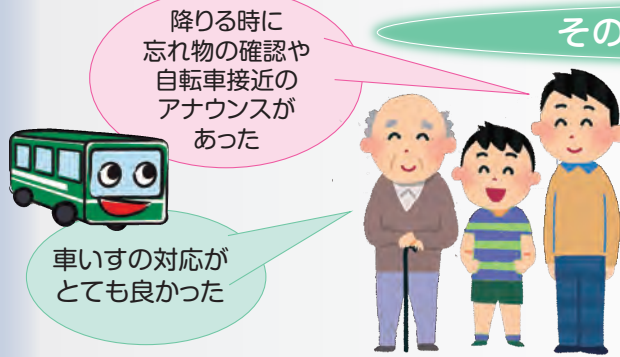
平成29年度市営バス巡回モニター調査結果まとまる

交通局では、日頃から通勤・通学や買い物等で市営バスをご利用のお客様からご意見やご提案をいただき、事業運営に活かしていくため、「市営バスモニター制度」を設けています。平成29年度は、12名の方に「市営バス巡回モニター」として乗務員の接客マナー等を確認していただきました。集計結果は次のとおりとなりました。

平成29年度調査結果

	出来ている	普通	出来ていない
乗車時挨拶	551件	211件	101件
マイク活用	439件	247件	177件
安全運転	592件	215件	56件

※乗車時挨拶：乗車時に挨拶（会釈のみ、会釈に合わせて口頭）があったか。
※マイク活用：マイクを活用したアナウンスを行っていたか。
※安全運転：乗務員が車内の動向等を確認した上での安全運転が行われたか。



その他、乗車時のご感想・ご意見（一部をご紹介）

今後も、引き続き「市営バス巡回モニター」を実施しながら、一人でも多くの皆さまからご感想やご意見をいただき、お客さまに「安全・安心・快適」にご利用いただけるよう、安全への取り組み、サービス向上へ努めてまいります。



平成29年度決算の概要

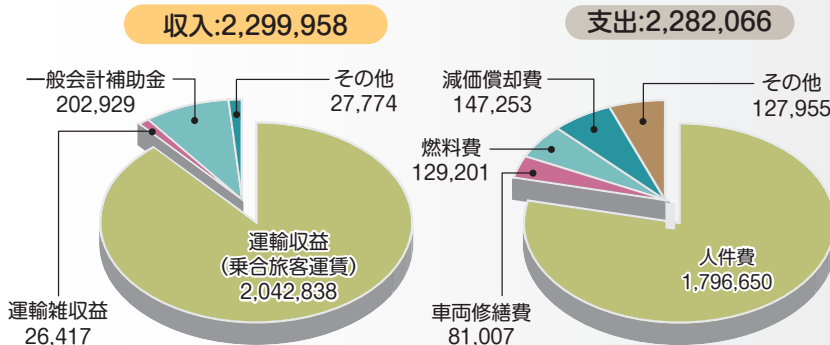
平成29年度は、1日平均約4万人、年間で約1,475万人のお客様にご利用いただき、運輸収益は20億4千3百万円となりました。また、バスのラッピングなどの広告料が主な運輸雑収益は2千6百万円、一般会計補助金などの営業外収益は2億3千1百万円となり、収入総額は23億円となりました。

これらの収入のうち、市が負担すべき経費として高齢者特別乗車証等の発行負担金5億9千7百万円、不採算路線に対する補助金1億1千8百万円をはじめ、総額8億円を一般会計から交通事業会計に繰り入れました。

一方で支出は、乗務員をはじめとする職員の人件費が17億9千7百万円、バス車両の修繕費が8千1百万円、燃料費が1億2千9百万円、減価償却費が1億4千7百万円、委託料や車両損害保険料などのその他経費が1億2千8百万円で、支出総額は22億8千2百万円となりました。

以上の結果、純損益は1千8百万円の黒字決算となりました。今後も、伊丹市交通事業経営戦略に基づき経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤の強化を目指します。

平成29年度 収益的収支状況 消費税抜 (単位:千円)



注) 高齢者特別乗車証に対する市からの負担金は、乗合旅客運賃に含む

乗合旅客運賃と乗車人員の推移

乗合旅客運賃 (単位:千円)

乗車人員 (単位:千人)

